

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

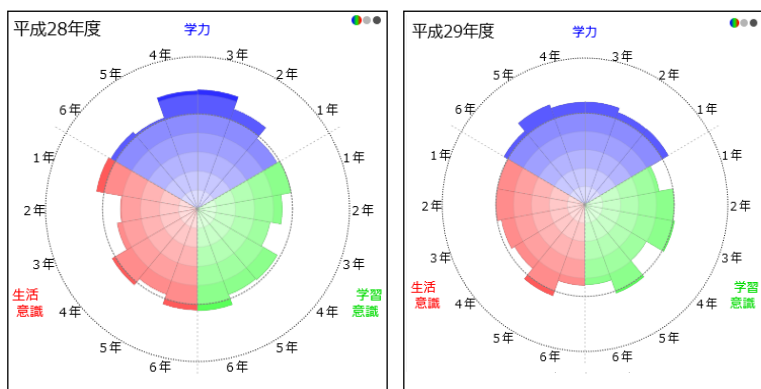
学校経営中期取組目標	
○子どもたち一人ひとりに向き合い、「ひと」や「まち」とのかかわりを大切にした、活力と魅力あふれる学校づくりを進めます。	
<ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士の関わり合いと認め合いを育む学習活動を展開します。 ・特別支援教育の視点を大切に、問題解決学習型の授業づくりに取組み、進んで問題を解決していく意欲を高めていきます。 ・家庭・地域・関係諸機関との連携をより一層強め、子どもの心に自尊感情・自己有用感を高めるように取り組んでいきます。 ・楽しみながら学べる体育学習の充実を図ります。 ・全教職員が互いに学びあい、啓発し合って自らの力を磨いていく学校づくりを進めます。 	

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)	学年で共通した指導方法で指導し、言語活動を位置付けた自分の考えを表現する学習を充実し、思考力・判断力・表現力の育成を目指す。	① 基礎・基本をしっかりと身につけられるように学年で共通した指導方法で指導し、家庭学習も共通理解を図り取り組む。学年での教材研究の充実に努める。 ② 説明、報告、記録、対話、討論などの言語活動を授業の中でしっかりと位置づけ、自分の考えを表現・交流する授業を常に意識して展開する。話し合いによる授業を充実させる。 ③ 3・4年算数の少人数指導や「きらきら教室」を行い、理科支援員を活用することで、基礎・基本の学力の定着を図る。
担当 教務部		

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析



学力は、横浜市の平均に比べ上回っている。全体として底上げされている。しかし、学習意識について、市の平均に比べると、児童の意識は低く学年によるばらつきもある。学習意識や自己肯定感の高まりと共に学力が向上するようにしていきたい。生活意識が安定してきているので児童が主体的に活動できる魅力ある授業を更に心がけ、ていねいに指導を続けることで成果が上げていきたい。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：学力は、市の平均を上回っているが、学習意識が低い。
- 算数科：昨年同様、基礎基本の定着と活用問題への対応が課題。
- 社会科：学力・学習意識とも向上している。社会科の授業が好きな児童が多いことがうかがえる。
- 理科：学力は着実に上がり定着している。ただし、学習意識は低下している。
- 技能教科：図工・家庭科の意識は高いが、音楽・体育の意識がとても低い。指導の工夫をしていきたい。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学校全体として、学力については底上げされ、向上している状況が見られる。また、生活意識については顕著に良くなってきている。ここ数年重点的に学校全体で、落ち着いた生活を心がけていこうということ意識して取り組んできた成果と考えられる。学年におけるばらつきも少しずつ解消してきている。ただし、学習意識については昨年度同様、学力に比べて低い傾向にある。学年によるばらつきも大きい。

本校の特徴として、学力に比べ、学習に対する意識は全体的に低い傾向にある。特定の学年についてその傾向が強く出てしまっている。職員の共通の認識として、学習習慣を身につけさせると同時に、各教科における基礎・基本の定着は確実に図り、どの教科においても、学習することが好きだと思えるように授業改善に取り組む必要がある。

「わかる」「楽しい」授業をめざし、児童が主体的に活動できる魅力ある授業となるように、学年で共通した指導方法で丁寧な指導し、ばらつきが出ないよう底上げできるようにしていきたい。

3 平成30年度 学年・教科等としての具体的取組

1 学年

- 国語科等で、説明する文章、紹介する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、できる限り対話をする場面を位置付ける。
- 生活科等では、分からないこと、詳しく知りたいことを尋ねたり、気持ちを表情や態度、言葉で表したりしながら対話する。

2 学年

- 算数で計算プリントに継続して取り組む等基礎基本をしっかり身につけられるようにする。
- 生活科等で、体験したことを報告する文章や説明する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに話し合いをする場面を位置付ける。相手の意見をしっかり聞き、話題にそって自分の考えを理由をそえて述べながら話し合う。

3 学年

- 朝算数や家庭学習では、学年で共通した教材を用いて定着を図る。100マス計算、漢字ノート学習を継続的に行い、基礎基本を確実に図る。
- 相手や目的に応じて理由や根拠を尋ねたり、まとめたり補足したりしながら話し合う。
- 主体的な活動を大切に、特に具体物を活用した学習に学年共通して取り組む。

4 学年

- 自分の思いを書き表したり、記録、報告する文章を書いたりするなどの表現活動を大切に図る。
- 相手の考えを認めたり、自分の考えを述べたりしながら話し合う。
- 算数では、少人数指導を生かし、基礎基本、学習内容の定着を図る。

5 学年

- 総合的な学習等で説明する文章、意見を述べる文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 相手の話を一般化したり、経験を加えて拡張したりしながら話し合う。
- 関連付けたり、分類・整理したりして考える学習と振り返りを行う。

6 学年

- 教科等の学習で今まで身に付けた様々な文章を書く力を自覚的に生かすことができるようにするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 考えの根拠を明確にしたり、違った見方・考え方を打ち出したりしながら話し合う。
- 学年専科で社会と理科の交換授業を行い、より教科特性を生かした授業に取り組む。

個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、発達段階や特性に応じて指導の手立てを工夫する。
- 具体的な活動を通して、自立的な生活に必要な事柄を実際の・総合的に学習する場面を設けるようにする。
- コミュニケーション能力を高めるために動作化したり、視覚的資料を活用したりして、子どもに応じたわかりやすい指導を行う。